

事務事業マネージメントシート

作成日 平成26年04月14日

事務事業名	中小企業勤労者元気アップ支援事業			担当	産業環境部 商工観光課 勤労者係					
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり			電話番号	0285-83-8134				
施策名	06	勤労者福祉の充実			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業					
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ				
法令根拠	中小企業勤労者元気アップ支援事業実施要綱					<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 平成17年度~)				
予算科目	1.一般会計	5.労働費	1項	1目		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度~ 年度)				
事業概要	昭和57年、中小企業勤労者の福利厚生に資することを目的に「海の家」として開設。16年度に「山の家」を加え、「海の家・山の家」開設事業とした。期間は、7月、8月の2ヶ月間。平成17年度に、勤労者福祉の拡充を図るため、「中小企業勤労者元気アップ支援事業」として新たにスタートした。(概要)市と協定を結んだホテル等(25箇所)の宿泊施設を利用した場合、一人当たり年度に1回3,000円を助成する。対象は、従業員300人以下の市内の企業に勤務する者及び被扶養者、ただし事業主は除く。									

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動) 25年度実績 補助金交付事務	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(実績)</th> <th>24年度(実績)</th> <th>25年度(実績)</th> <th>26年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:補助金</td> <td>千円</td> <td>707</td> <td>768</td> <td>399</td> <td>285</td> <td>750</td> </tr> <tr> <td>イ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)	ア:補助金	千円	707	768	399	285	750	イ:							ウ:							エ:							オ:						
名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)																																					
ア:補助金	千円	707	768	399	285	750																																					
イ:																																											
ウ:																																											
エ:																																											
オ:																																											
26年度計画 前年度同様。																																											
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 従業員300人以下の市内中小企業の勤労者及びその被扶養者	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(実績)</th> <th>24年度(実績)</th> <th>25年度(実績)</th> <th>26年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:従業員300人以下の市内中小企業の勤労者(掛け算)</td> <td>人</td> <td>35,068</td> <td>34,850</td> <td>34,691</td> <td>34,495</td> <td>34,390</td> </tr> <tr> <td>イ:商業系事業所(商業統計19・経済分野04)</td> <td>所</td> <td>449</td> <td>449</td> <td>432</td> <td>432</td> <td>432</td> </tr> <tr> <td>ウ:工業系事業所(工業統計)</td> <td>所</td> <td>206</td> <td>209</td> <td>201</td> <td>201</td> <td>201</td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)	ア:従業員300人以下の市内中小企業の勤労者(掛け算)	人	35,068	34,850	34,691	34,495	34,390	イ:商業系事業所(商業統計19・経済分野04)	所	449	449	432	432	432	ウ:工業系事業所(工業統計)	所	206	209	201	201	201	エ:							オ:						
名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)																																					
ア:従業員300人以下の市内中小企業の勤労者(掛け算)	人	35,068	34,850	34,691	34,495	34,390																																					
イ:商業系事業所(商業統計19・経済分野04)	所	449	449	432	432	432																																					
ウ:工業系事業所(工業統計)	所	206	209	201	201	201																																					
エ:																																											
オ:																																											
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 中小企業の勤労者が、安らぎと潤いを感じる生活ができるよう、また、心身ともに健全で勤労意欲が向上し、福利厚生に資する。	⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(実績)</th> <th>24年度(実績)</th> <th>25年度(実績)</th> <th>26年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:事業利用者数</td> <td>人</td> <td>236</td> <td>256</td> <td>133</td> <td>95</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>イ:利用事業所数</td> <td>所</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>ウ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)	ア:事業利用者数	人	236	256	133	95	250	イ:利用事業所数	所	10	15	11	10	15	ウ:							エ:							オ:						
名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)																																					
ア:事業利用者数	人	236	256	133	95	250																																					
イ:利用事業所数	所	10	15	11	10	15																																					
ウ:																																											
エ:																																											
オ:																																											
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 勤労者福祉の充実	⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(実績)</th> <th>24年度(実績)</th> <th>25年度(実績)</th> <th>26年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:真岡市は働きやすい環境を感じている就労者の割合</td> <td>%</td> <td>80.7</td> <td>79.6</td> <td>76.5</td> <td>75.7</td> <td>78.0</td> </tr> <tr> <td>イ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)	ア:真岡市は働きやすい環境を感じている就労者の割合	%	80.7	79.6	76.5	75.7	78.0	イ:							ウ:							エ:							オ:						
名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)																																					
ア:真岡市は働きやすい環境を感じている就労者の割合	%	80.7	79.6	76.5	75.7	78.0																																					
イ:																																											
ウ:																																											
エ:																																											
オ:																																											
(2) 総事業費の推移																																											
投 入 量	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)																																					
事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0																																					
	県支出金	千円	0	0	0	0																																					
	地方債	千円	0	0	0	0																																					
	その他	千円	0	0	0	0																																					
	一般財源	千円	707	768	399	285																																					
	事業費計(A)	千円	707	768	399	285																																					
人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	0																																					
	延べ業務時間	時間	56	56	50	45																																					
	人件費計(B)	千円	239	238	210	183																																					
	トータルコスト(A)+(B)	千円	946	1,006	609	468																																					
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等																																											
①この事務事業を開始したきっかけは何か? いつごろどんな経緯で開始されたのか?	昭和57年、中小企業勤労者の福利厚生に資することを目的に、民間宿泊施設を「海の家」として協定を結び利用助成事業として開設した。																																										
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	事業開始当初は15宿泊施設であったが、現在は25宿泊施設と協定を結んでいる。 市ホームページ、Wi-Fiクリーニュースもおか、かいきじょだより等での周知や、企業訪問の際にPRを行っているが、大型商業施設の閉店により利用が減少している。																																										
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?																																											

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 勤労者の安らぎと潤いのある生活につながり、勤労者福祉を充実することは、市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 勤労者の安らぎと潤いを感じる生活につながり、勤労者福祉を充実することは妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある より多くの勤労者に安らぎと潤いのある生活を実現してもらうため、対象とする企業の拡大を検討する必要がある。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 制度の積極的なPRと対象企業の拡大により利用者増が見込ることから、成果の向上余地がある。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 市内勤労者に対する福利厚生が後退する。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の助成であり、削減の余地がない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 新規の施設との協定締結や補助金交付事務等、必要最小限の人件費であり、削減の余地がない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 利用者への一部助成であり、受益者は心分の負担があり、公正、公平である。

3. 改革・改善方向の部

（1）改革の方向性（改革案・実行計画）

廃止 見直し（：目的妥当性 ：有効性 ：効率性 ：公平性） 統合 継続
より多くの勤労者の福祉に資するため、対象企業の拡大を検討する。

（3）改革・改善による期待成果

	コスト		
	削減	維持	増加
成果	向上		
	維持		
	低下		

（2）改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

（1）1次評価結果の客観性と出来具合 記述説明不足（説明責任不充分） 評価内容が客観性を欠く 評価内容は客観的と言える

（2）2次評価者としての評価結果

①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり

（5）改革・改善による期待成果

	コスト		
	削減	維持	増加
成果	向上		
	維持		
	低下		

（3）2次評価者として判断した今後の事業の方向性

廃止 休止 目的絞込み 目的拡充
 事業統廃合 事業のやり方改善
 予算削減 予算増大
 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

（4）その他2次評価会議で指摘された事項